

ヤマシンフィルタ株式会社 決算説明会

- ◆ 2015年3月期は中国市場の低迷の影響を受けつつも、油圧ショベル用フィルタ製品を中心に増収増益を達成
- ◆ 中期経営計画では売上高伸長率6%の持続的成長を目指す

2015年5月27日
<証券コード6240>

I. 決算報告	P. 3
I. はじめに	P. 4
II. 2015年3月期 実績	P. 8
III. 2016年3月期 計画	P. 13
II. 中期経営計画	P.26
I. 中期経営計画の骨子	P. 27
II. 将来像	P. 36

I . 決算報告

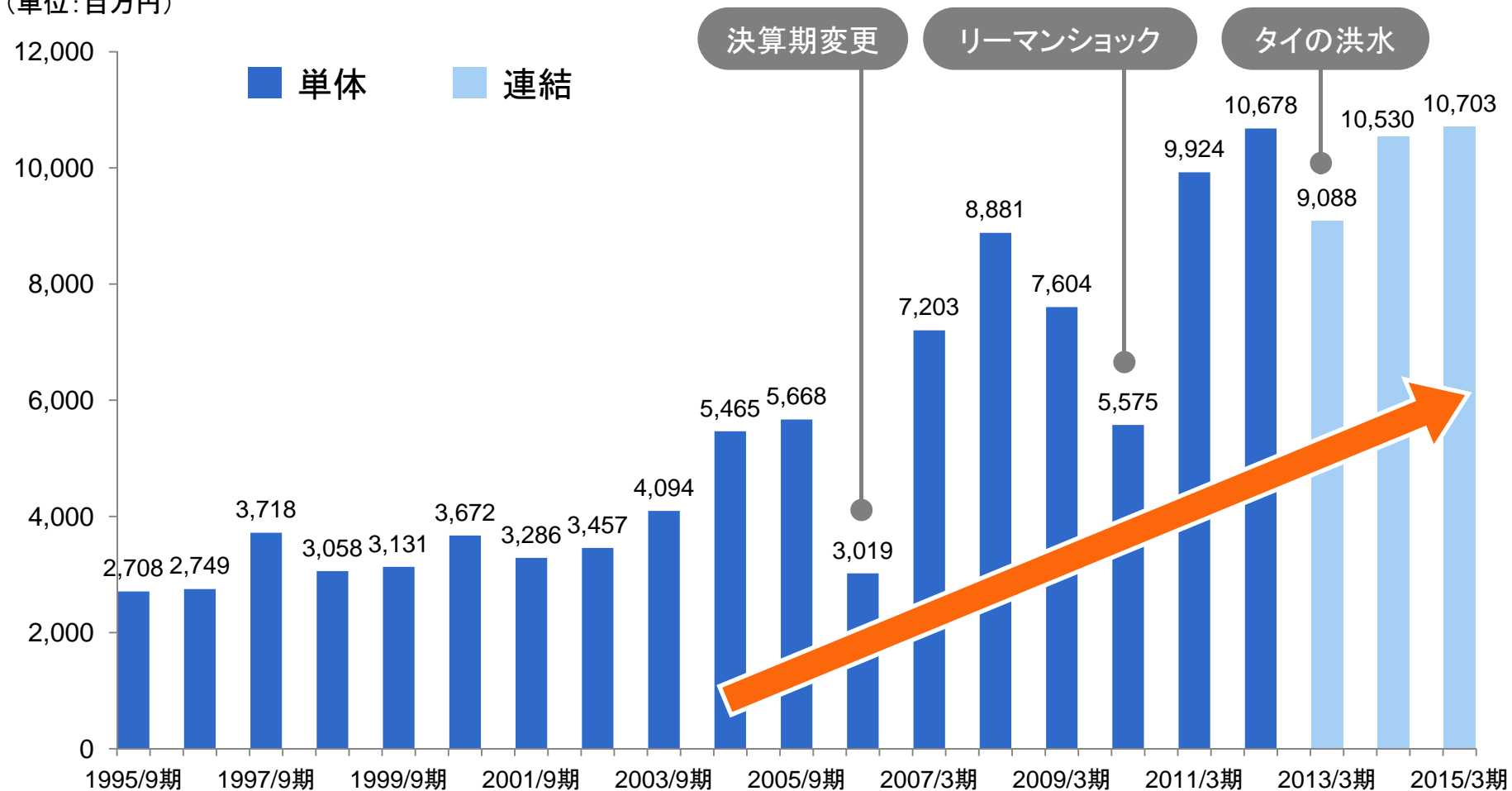
はじめに

ヤマシンフィルタについて① これまでの売上高推移



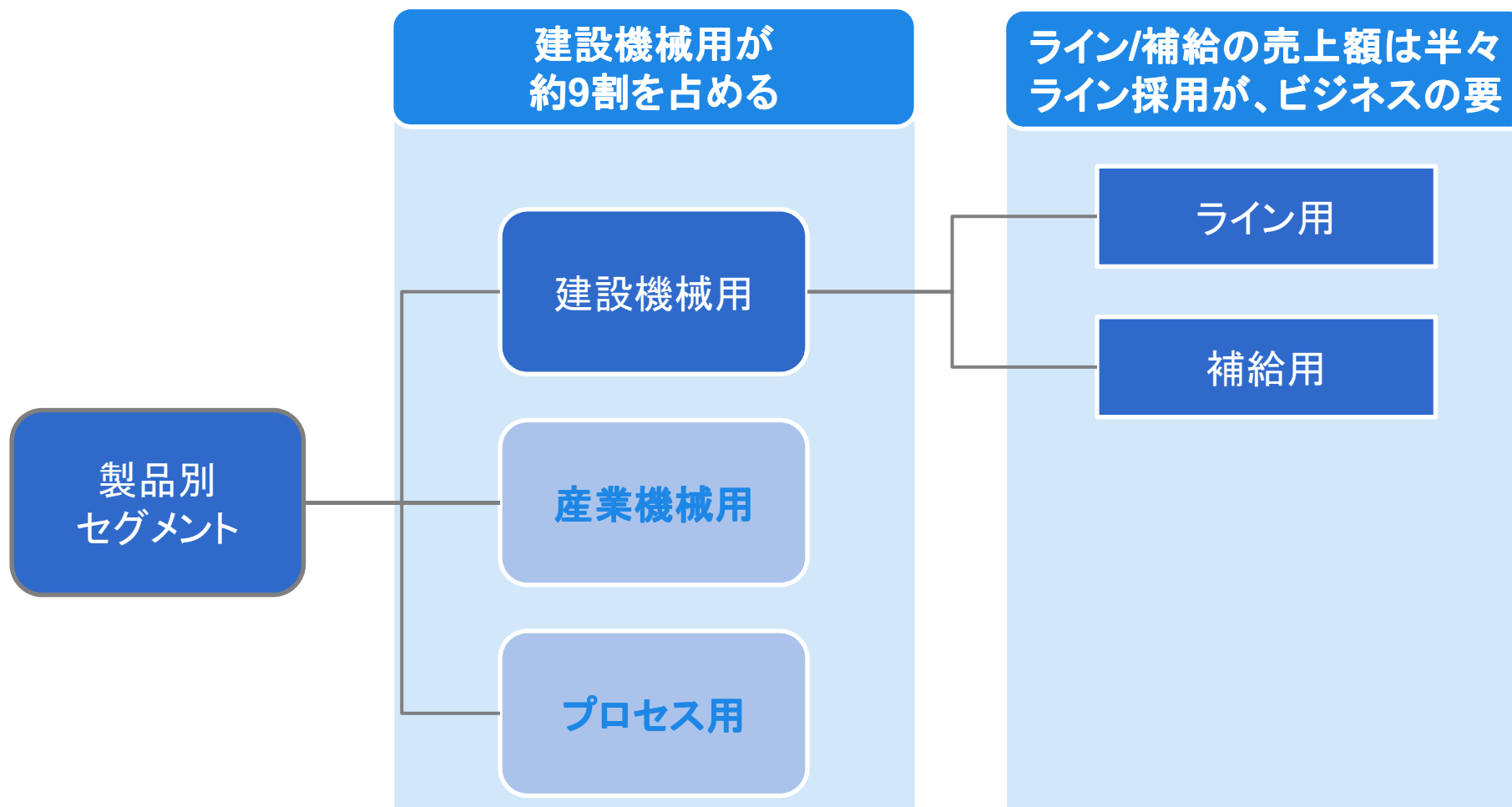
■ “躍進の10年” 2002年以降、新興国の需要を取り込み、連結売上高は100億円を突破

(単位:百万円)



ヤマシンフィルタについて② 売上高の構成

- 建設機械用フィルタを中心に、ライン用と補給用の“両輪”で顧客基盤を構築



決算の概要

- 15.3期は、期初計画の下方修正があったものの、前期比増収増益を確保
- 16.3期は、新規ライン品の投入、補給品の販売強化により、前期比6%増収を目指す
- 中期経営計画として、18.3期には、売上高128億円、営業利益12.5億円を目指す

15.3期実績

中国市場低迷を油圧
シヨベル用フィルタ製品
を中心に増収増益達成

16.3期計画

市場環境は厳しいが、
新規ライン品や補給品の
販売強化で増収目指す

中期経営計画

売上高伸長率6%の
持続的成長を目指す

2015年3月期 実績

~中国市場の低迷を受けつつも、油圧ショベル用フィルタを中心に収益確保~

決算サマリー



- 中国市場の低迷により、期初計画の修正はあったものの、前期比では増収増益を達成

(単位:百万円)	2014/3期	2015/3期	2015/3期	2015/3期	前期比増減	
	実績	期初計画	修正計画	実績	金額	%
売上高	10,530	11,069	10,637	10,703	172	1.6%
営業利益	710	817	825	869	159	22.5%
当期純利益	336	530	463	430	93	27.9%
ROE (%)	7%	-	-	8%	-	-

※期初計画は2014年11月4日、修正計画は2015年2月3日に開示

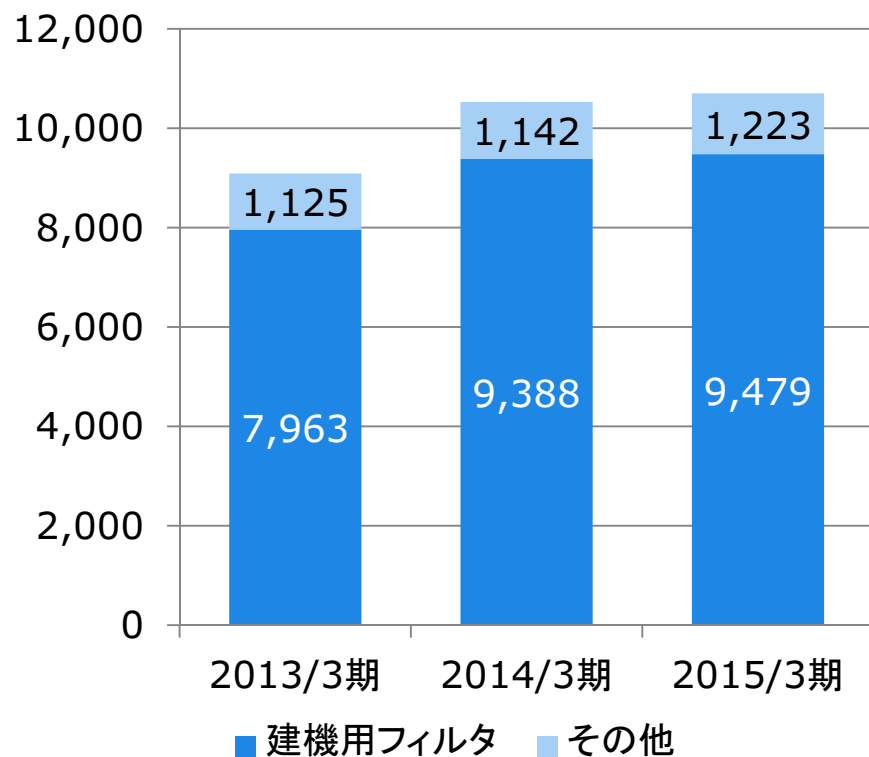
売上高 製品別・地域別推移



■ フィルタ製品のラインナップを充実し、建設機械メーカーからの案件拡大を実現

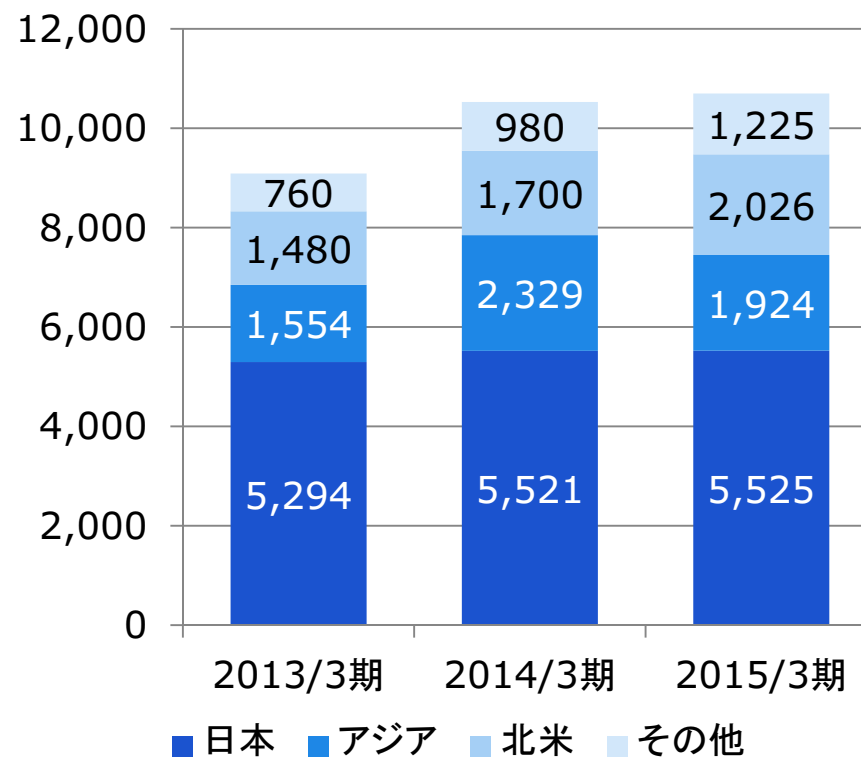
製品別売上高推移

(単位:百万円)



地域別売上高推移

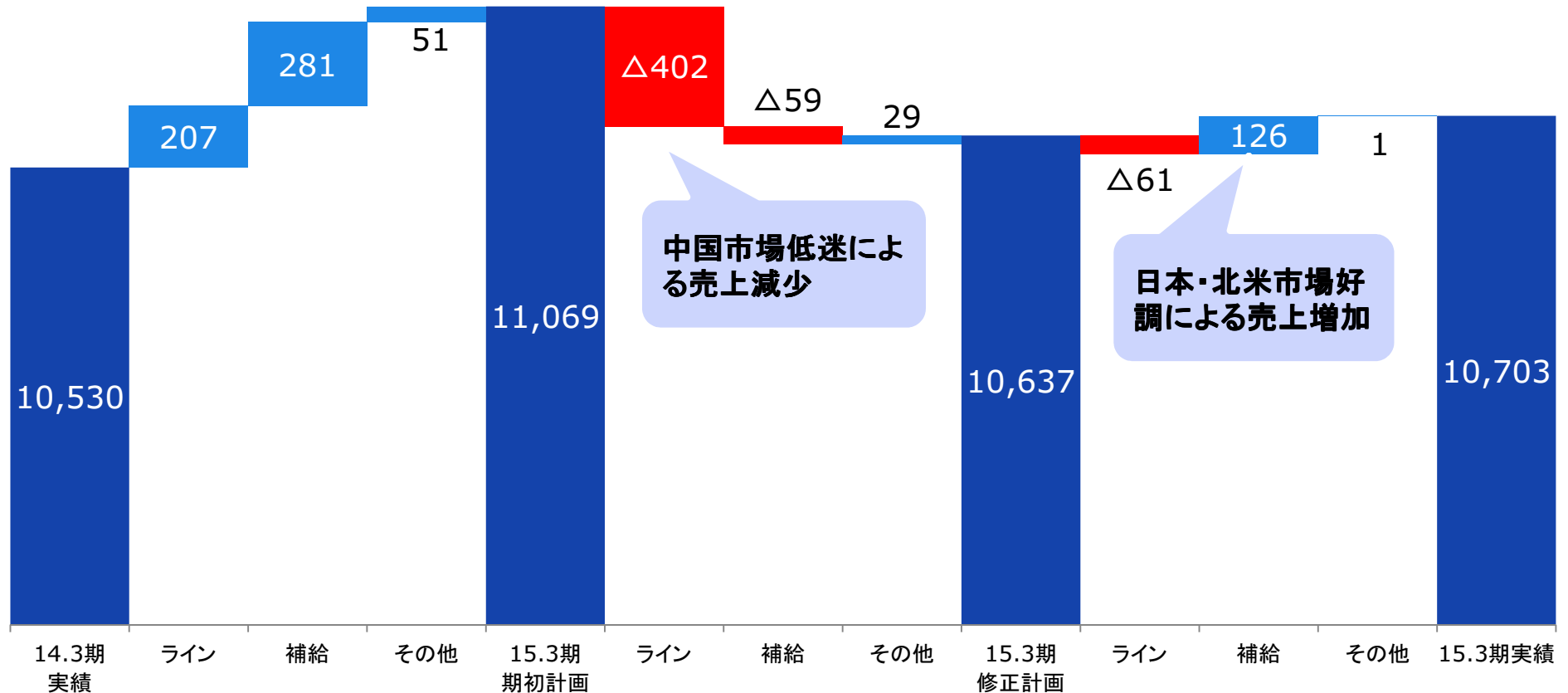
(単位:百万円)



売上高の増減要因分析

- 当初計画に比べ、ライン品売上が落ち込むものの、補給品売上で持ち直す

(単位:百万円)



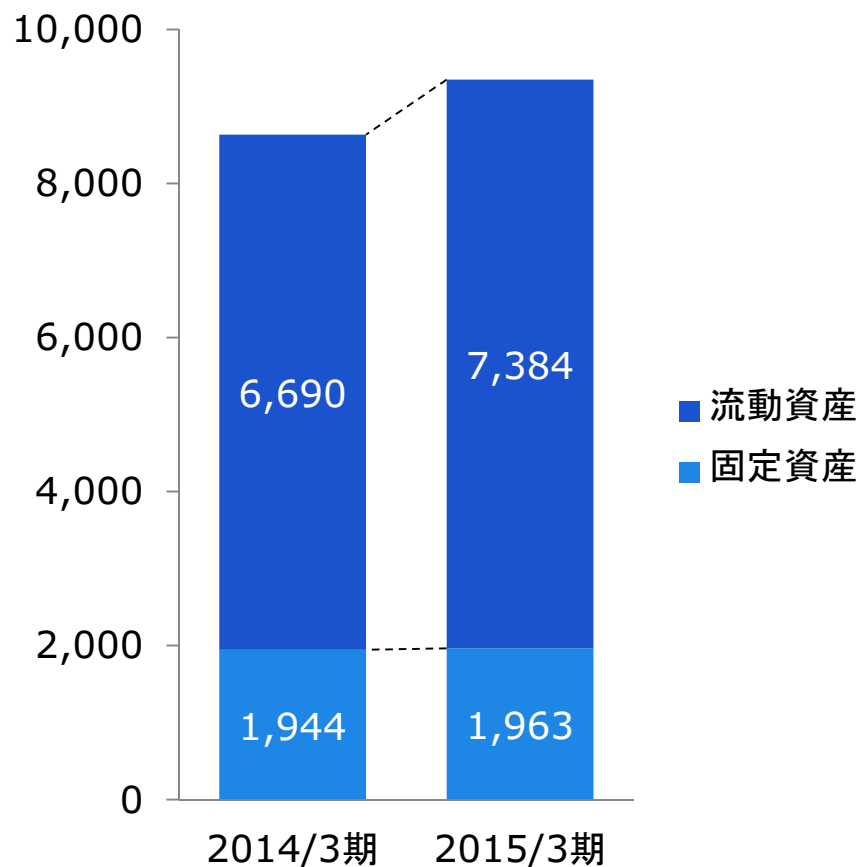
※その他の項目には、会計上の期ずれ調整の金額が含まれております。

前年比 貸借対照表 (要約)

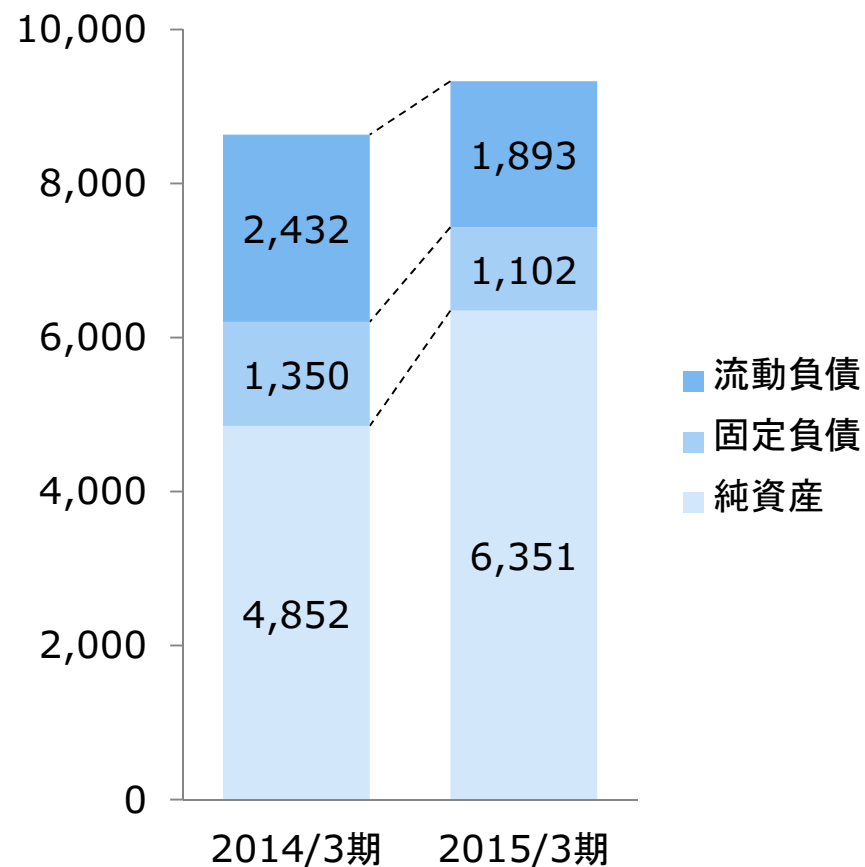
■ 上場に伴う増資等により純資産増加

(単位: 百万円)

資産



負債及び純資産



2016年3月期 計画

~厳しい市場環境の中で、新規品投入により増収を目指す~

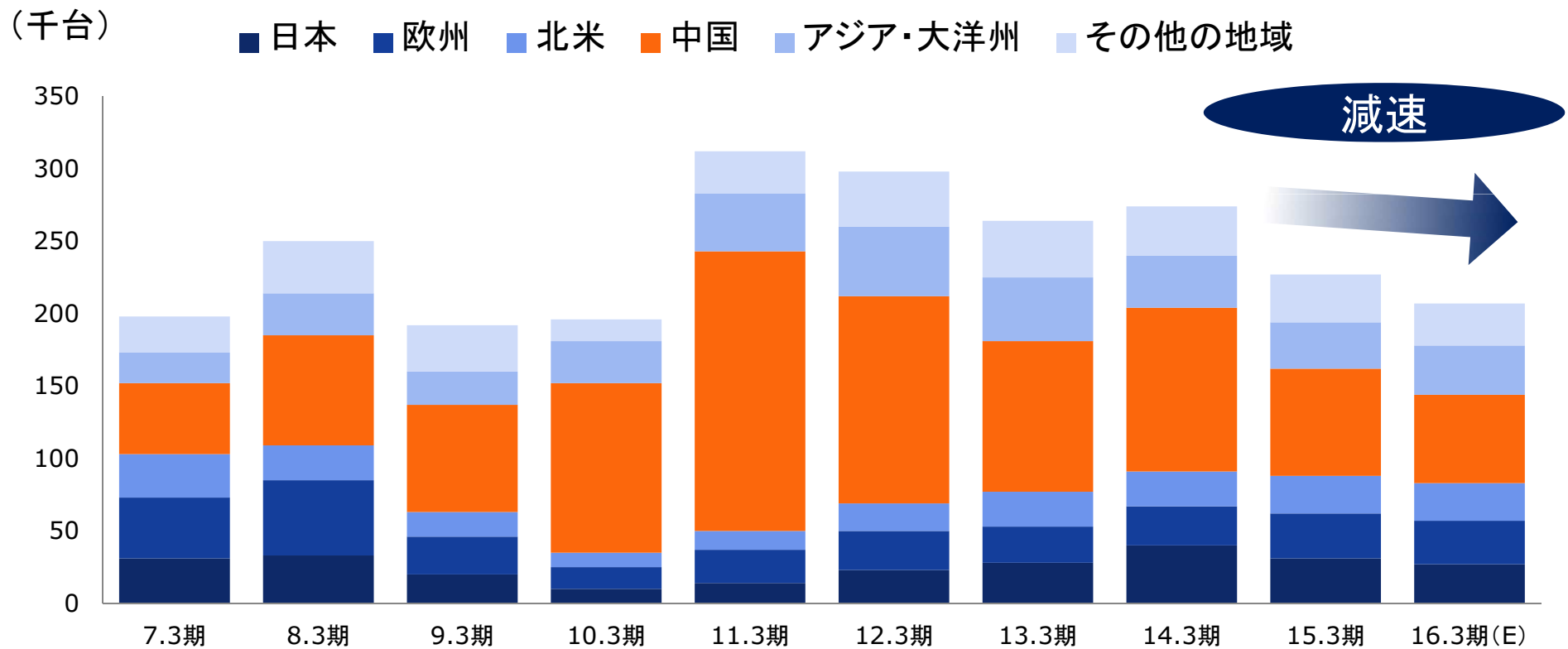
市場概況

事業環境概略 ~マクロ環境~



■ 中国の経済減速を主要因として、新車需要も減速

事業環境の整理/油圧ショベル新車需要推移



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

建設機械市場の状況 ~2015年3月期の振り返り~



- 欧米は需要が堅調だったものの、中国・アジアでは需要の低迷が続く

	日本	海外			
		中国	アジア・大洋州	北米	欧州
市場環境	堅調 (前期需要を下回る)	低迷	低迷	堅調	堅調

- 【日本】 東日本大震災被災地での復興工事等はあったものの、排ガス規制に伴う駆け込み需要の反動を受け、前期需要を下回る
- 【欧州・北米】 住宅関連投資の持ち直しや設備投資の回復により、需要が拡大
- 【中国・アジア】 不動産投資の鈍化等により、需要は低迷

2016年3月期における市場見通しの前提

- 中国など新興国の市場環境は、引き続き厳しい

市場環境



- 【日米欧】 引き続き堅調
- 【中国】 製造業や不動産投資の抑制により、大幅な需要減少
- 【アジア・大洋州】 資源国での新車需要の低迷が続いている

業績予想

2016年3月期 通期業績予想



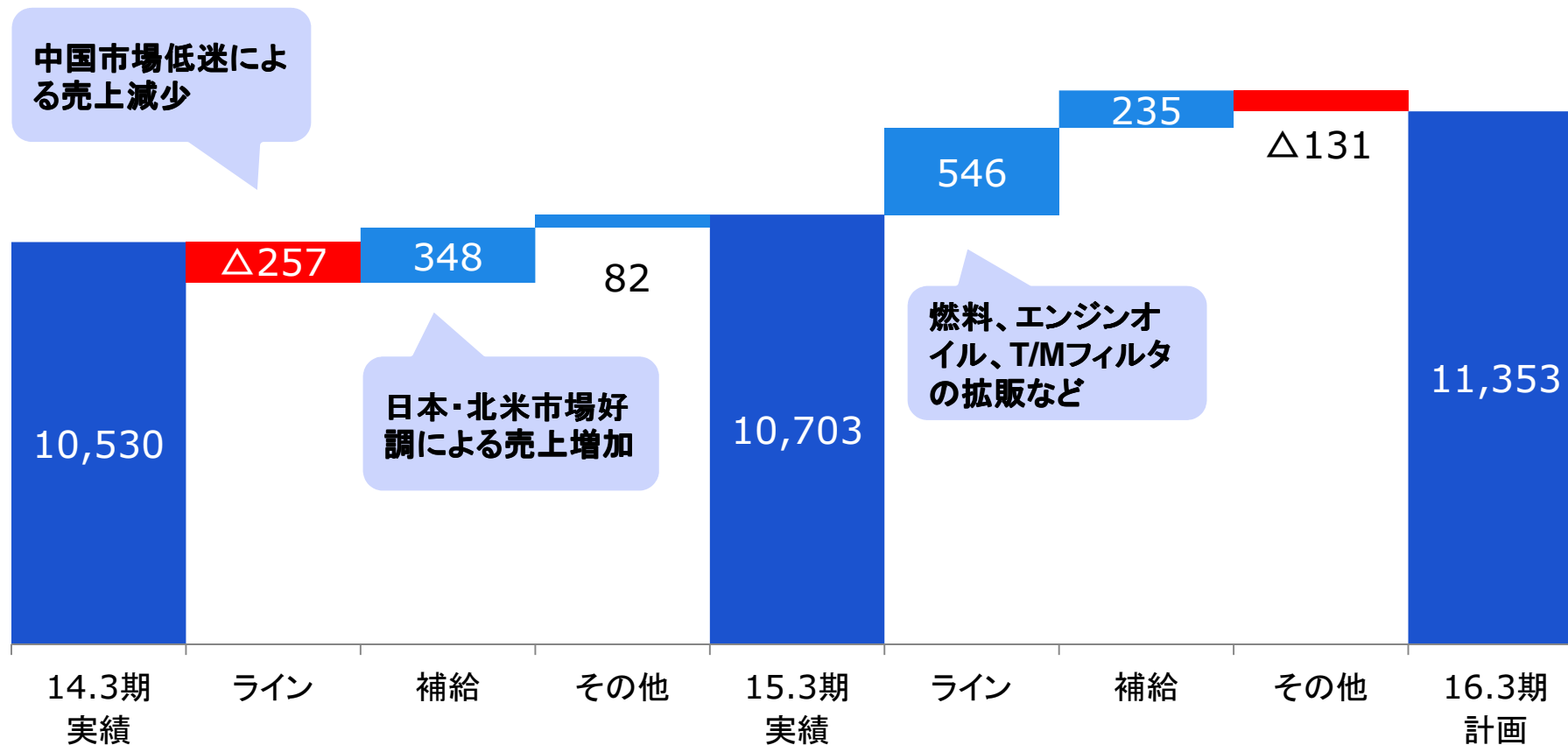
- 厳しい市場環境の中で、ライン・補給両方の拡販努力により、6%増収を目指す

(単位:百万円)	2015/3期	2016/3期	前期比増減	
	実績	業績予想	金額	%
売上高	10,703	11,353	650	6.1%
営業利益	869	835	△34	△3.9%
当期純利益	430	540	110	25.6%
ROE (%)	8%	8%	-	-

売上高の増減要因分析

- 燃料フィルタやエンジンオイルフィルタ等の、新規ライン品投入を中心に増収を目指す

(単位:百万円)



※その他の項目には、会計上の期ずれ調整の金額が含まれております。

株主還元

配当政策



- 株主還元と内部留保とのバランスを考慮しながら、安定した配当を行う予定

	14.3期 2013年4月1日 ～ 2014年3月31日	15.3期 2014年4月1日 ～ 2015年3月31日	16.3期 2015年4月1日 ～ 2016年3月31日
配当性向	20.1%	24.8%	23.0%* ²
1株当たり配当金	40円* ¹	19円	20円* ²

※1 2015年3月20日付で普通株式1株を3株に分割いたしました。2014年3月期の1株当たり配当金は株式分割前の配当金の額を記載しております。

※2 16.3期については、現時点での予定です。

株主優待

- 投資家の方々の当社株式への投資意欲を高める目的で設置(2015年5月15日開示)

優待概要	
対象株主	毎年第2四半期末(9月30日)、期末(3月31日)現在の株主名簿に記載又は記録された当社株式1单元(100株)以上を保有する株主
開始日	2015年9月30日より
優待品	QUOカード
保有株数による区分	100株以上1,000株未満 → 500円相当 1,000株以上 → 1,000円相当
配当+優待利回り (1单元)	2.86% (5/22終値、1株当たり配当金20円で計算)

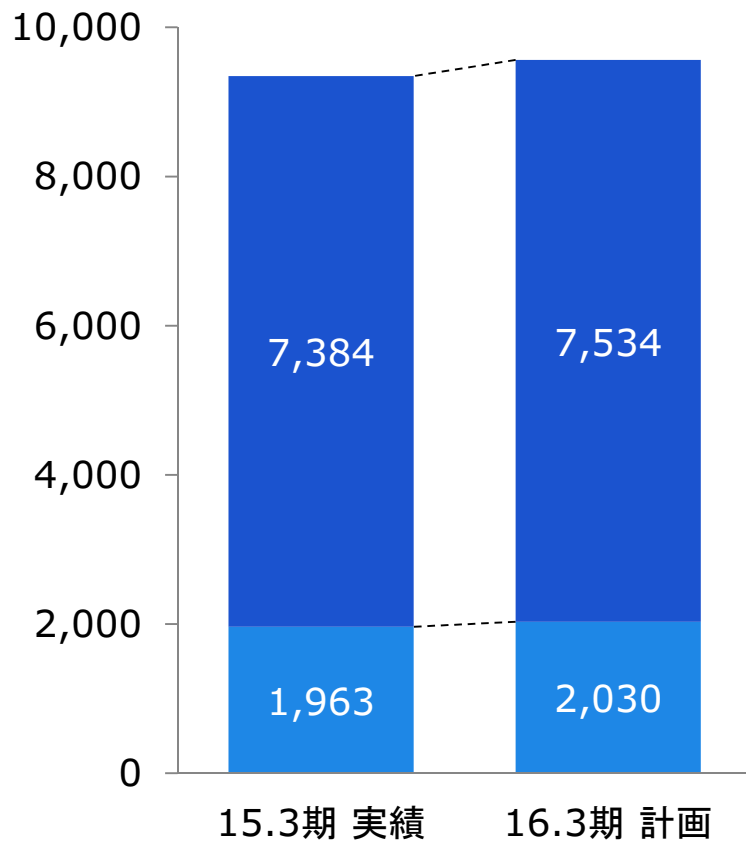
比較貸借対照表(要約)



■ 当社株式上場により、時価総額が純資産を超える場面が増えてきている

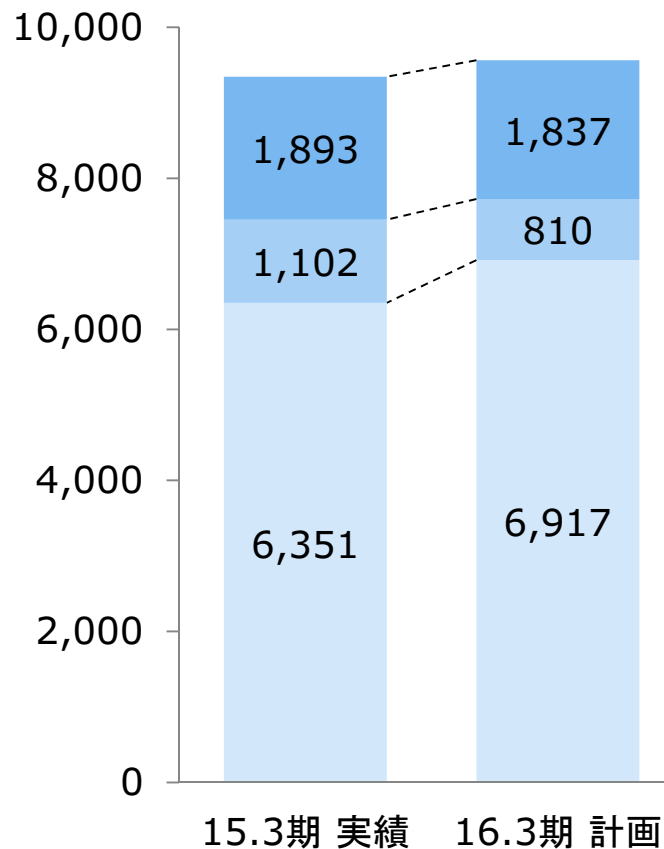
資産

■ 固定資産 ■ 流動資産



負債及び純資産

■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債



(単位:百万円)

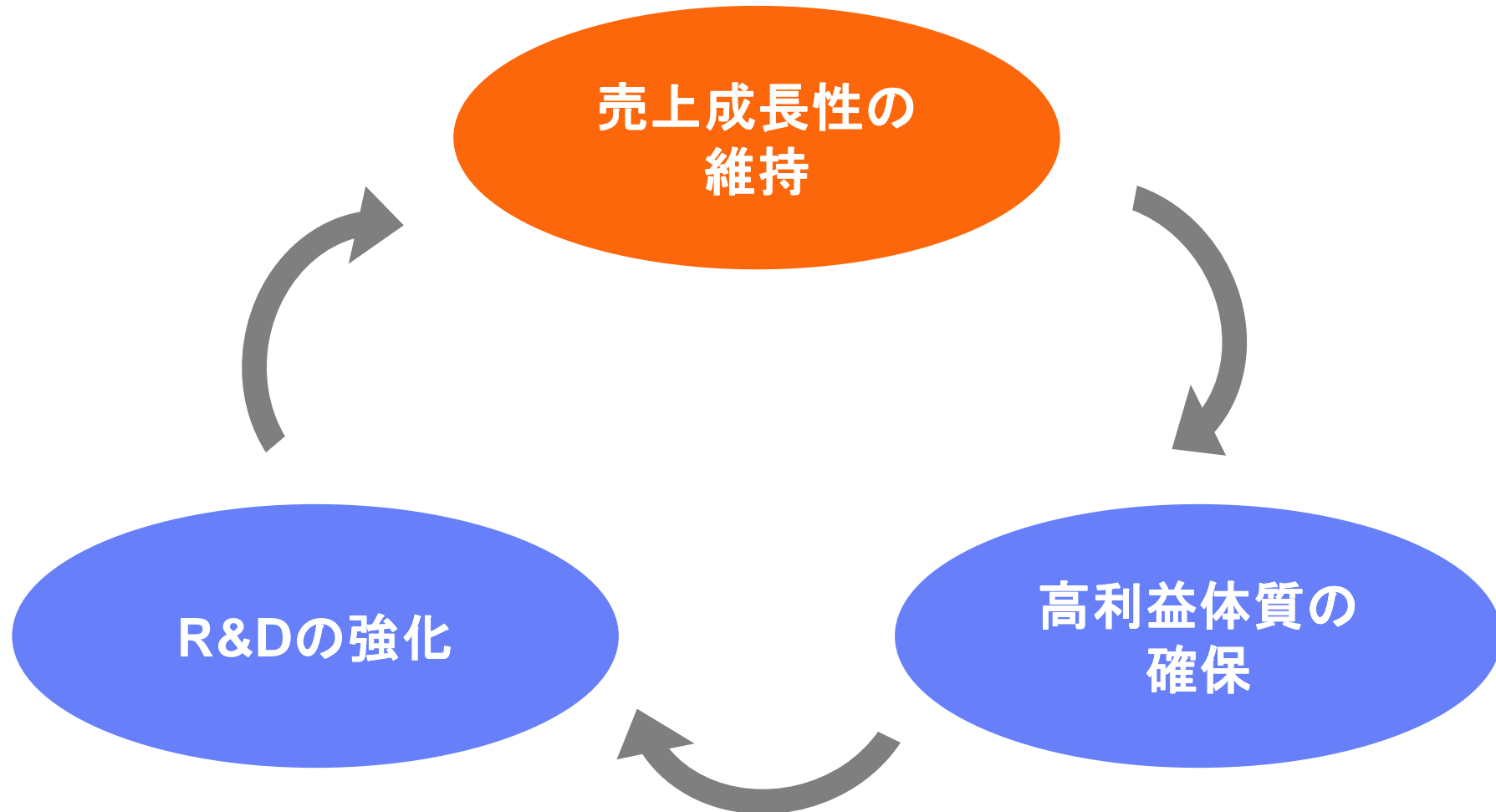
【参考】

(百万円)	2015/5/22 終値
時価総額	6,523
PBR	1.03倍

II. 中期経営計画

中期経営計画の骨子

~油圧周辺分野への攻勢~

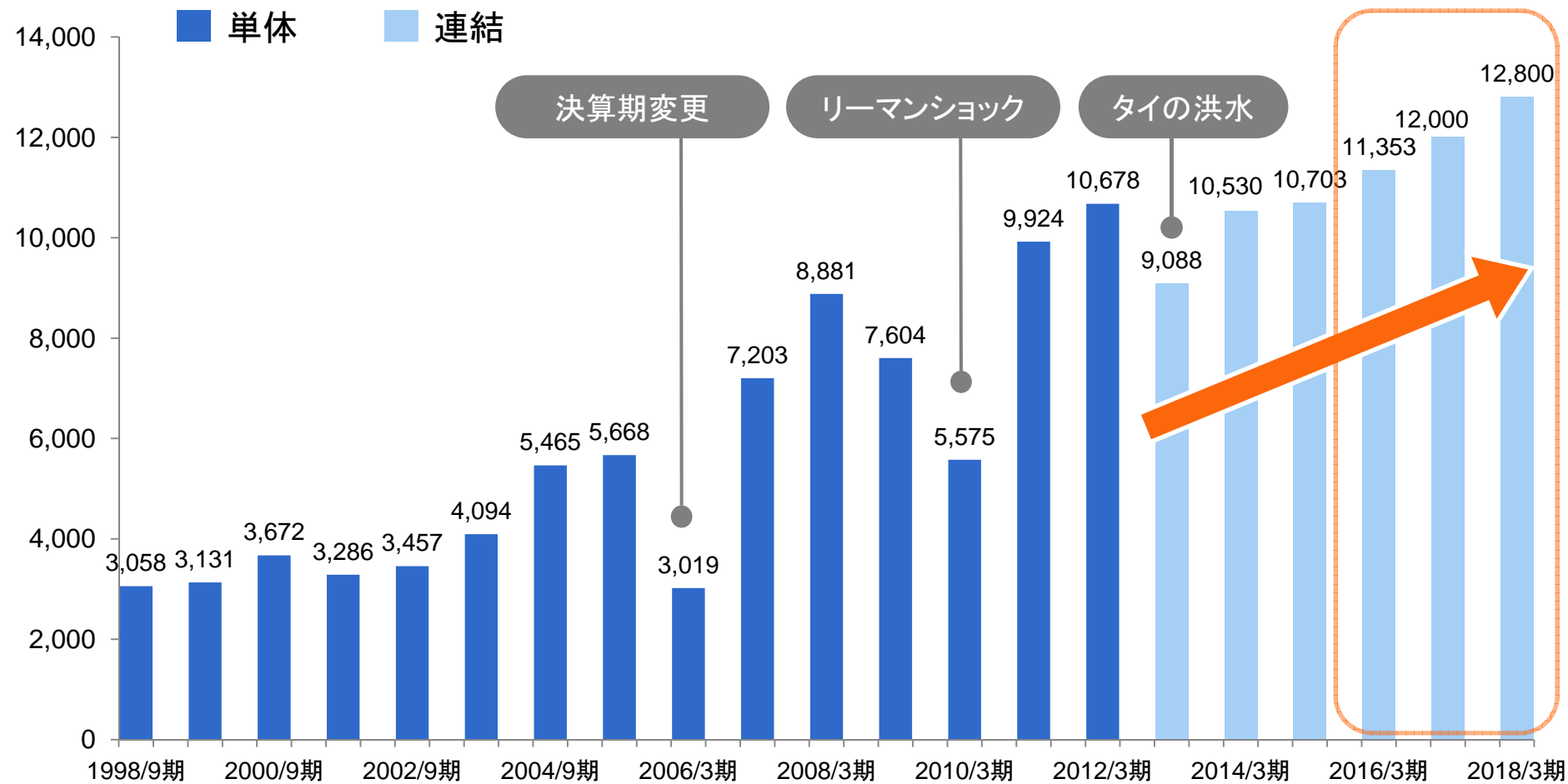


中期経営計画達成に向けて



■ 過去最高売上高の更新を続けていく

(単位: 百万円)



中期経営計画 定量目標



- 足元の厳しい環境の中、売上高成長率は約6%、2018/3月期には営業利益率10%を目標とする

(単位:百万円)

	2015/3月期 実績	2016/3月期 計画	2017/3月期 計画	2018/3月期 計画
売上高	10,703	11,353	12,000	12,800
営業利益	869	835	1,000	1,250
売上高営業利益率	8%	7%	8%	10%
ROE	8%	8%	9%	10%

売上成長性の維持に向けて 市場・顧客別マトリクス



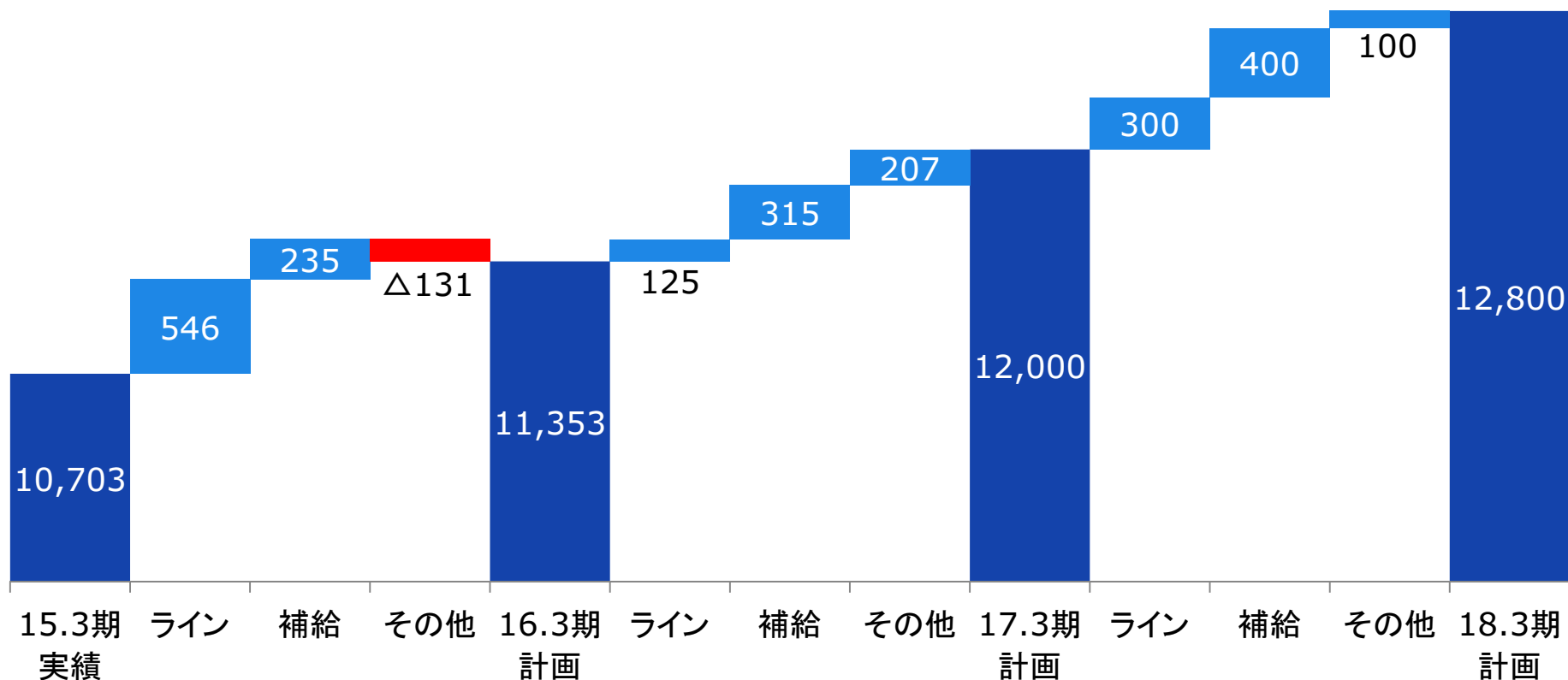
- 燃料フィルタ等の新規製品、及び北米・中国市場を中心に、販売機会を見込む

		日本	海外	
			北米	中国・アジア
ライン	油圧	シェア70%の 磐石体制を構築	大手建設機械メーカーの存在 油圧ショベル以外の建機に、 販売機会あり	現地でシェアを持つ 中国地場メーカーへの 販売機会あり
	周辺	燃料フィルタ販売開始	トランスミッション 及びエンジンオイル フィルタの販売実績あり	燃料汚染度が高く、 燃料フィルタの需要大
補給		純正率高い	純正率高い	純正率低く、 販売機会あり

中期経営計画における売上高の増減要因

- 新規ライン品を市場へ投入するとともに、その補給品売上を確実に取り込んでいく

(単位:百万円)



※その他の項目には、会計上の期ずれ調整の金額が含まれております。

売上成長性の維持 ~ライン・補給別の取り組み~



- 既存分野・新製品の拡販強化及びアフターマーケットの取り込みにより、売上成長性を維持

信頼

【ライン】

ヤマシンアメリカやヤマシン上海のカスタマーサポート体制を強化する等、北米や中国の建機メーカーとのリレーション構築活動、製品採用拡大

周辺

【ライン】

燃料フィルタ、エンジンオイル用フィルタ、トランスミッション用フィルタ等、建機油圧周辺分野の製品販売強化

協力

【補給】

中国・アジアでの純正率向上を軸とした、得意先各社の部品ビジネス強化への取り組みに対する協力

18.3期までの売上高年平均成長率
ライン7%, 補給品5%

高利益体質の確保



- 生産体制の最適化により、高利益体質を確保

コスト競争力

設計・生産コスト低減による、コスト競争力の維持

環境対応

生産現場での省エネ化や省人化による、効率性改善・環境対応

管理体制

安定生産や高品質維持を実現する、生産管理体制の強化

売上高営業利益率の向上 18.3期には10%達成を目指す

- R&Dの強化により、顧客満足を超える製品提案を実現

ろ材

競争優位性の核である「ろ材」の継続的な研究開発

製品開発

営業活動と連動した製品開発
・燃料フィルタ等、油圧回路以外で 사용되는製品の開発(ライン)
・模倣品対策設計の強化(補給)

ICT

ICT(情報通信技術)を用いた、フィルタ製品の開発

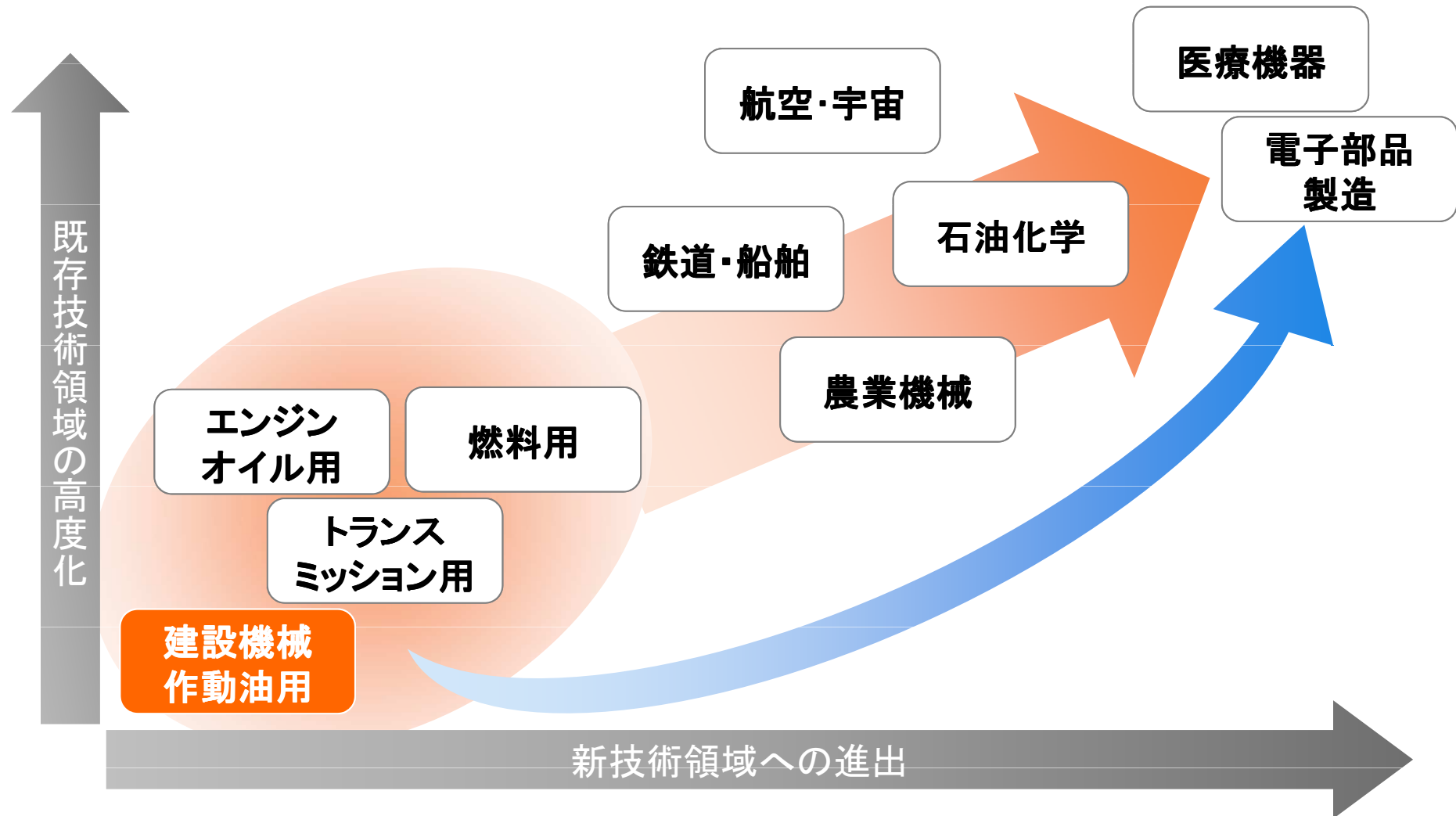
18.3期までの3年間の研究開発コストは、売上高の5~6%を予定

将来像

~ヤマシンフィルタの目指す姿~

目指す将来像 ~新分野の育成・開拓~

- 建機の周辺分野やノウハウを活用した新分野の進出を検討



前期比増収増益

15.3期は、中国市場の低迷の影響を受けるものの、補給品売上を中心に、前期比で増収増益を達成

16.3期は、 新規品の売込

16.3期は、厳しい市場環境の中、新規製品の売上を伸ばすことで、増収を見込む

売上高成長率は、 平均約6%を目指す

中長期的には、新規ライン品の投入等により、約6%（年平均）の売上成長性を目指す

- この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります。

この資料に関するお問い合わせは
ヤマシンフィルタ株式会社 経営企画室まで

TEL (045-680-1671)

E-mail: ir@yamashin-filter.co.jp